

脳神経外科医専門医に聞く

富山労災病院 脳神経外科副部長

よしだ ゆうや
吉田 優也



H28年 新病院完成予想図

脳梗塞とその急性期治療について



脳梗塞は、脳の血管が細くなったり、脳の血管に血のかたまり（血栓）が詰まったりして、脳に血液が送られなくなるため、脳の神経細胞が障害される病気です。脳のどの血管が詰まるかで症状は多彩ですが、主な症状は、手足の（半身の）麻痺、しびれ、ろれつが回らない、言語障害（話せない、言葉が理解できない）、意識障害などです。50歳以上で発症することが多く、加齢とともに発症する可能性が増加します。多くの患者さんが何らかの後遺症を残し、完全に回復することが困難です。

脳梗塞の治療では、できるだけ早く（症状が出現してから4時間30分以内）脳の血の流れを良くすることが大切です。このため、日本では2005年に急性期脳梗塞に対してアルテプラゼ（rt-PA）というお薬を投与する治療が認可され、従来の治療法と比べ概ね良好な治療成績が報告されています。このお薬を投与する治療は血栓溶解療法といい、詰まった脳の血管の血栓を溶かすことによって、血液の流れを再開させ、脳梗塞を治療します。**このお薬は、症状が出現してから4時間30分以内に点滴する必要があります。**多くの臨床研究にて、この血栓溶解療法を行った患者さんの約4割程度は障害なく、社会復帰が可能であるとされています。

当初はこの治療の対象は発症3時間以内の急性期脳梗塞でしたが、2012年よりその適応が4時間30分以内に延長され、さらにその有効性を発揮する機会は増えています。しかしながら、急性期脳梗塞の患者さんが病院を受診後、脳梗塞と診断するために脳の画像検査、血液検査等に約1時間の時間を要することを考慮すると、この治療のためには発症から3時間以内の受診が必要といえます。現在この治療の実施率には著しい地域格差がみられ、高齢化が進む過疎地域の実施率が低く、これは一般の方々に、この治療法の存在が十分に知られていないためです。

富山県全体でみても、急性期脳梗塞の患者さんの発症3時間以内の受診率は低く、血栓溶解療法の実施率は決して高いわけではありません。一般の方々が脳梗塞の早期受診の重要性を理解すると同時に、脳梗塞発症の危険性を有する高齢者がこの病気の認識をもつことにより、発症直後に来院する患者さんが増えれば、この治療の適応症例を増やせるものと考えられます。

当院は常勤の脳神経外科医は4名、神経内科医は1名で、施設あたりの脳卒中診療専門医数は十分確保されています。脳の画像検査（CT、MRI）は24時間いつでも実施可能です。今後はさらに多くの患者さんが後遺症を残すことなく回復するという恩恵を受けることができるよう、地域住民が脳梗塞とその急性期治療に対する共通認識をもつことが重要と考えられます。

＜健康診断部では、「精密検査必要」と言われた方の受診予約（電話）を受けています。＞

待ち時間が少なく、スムーズに受診を受けられます。特にお仕事をされている方、多忙な方はどうぞ地域医療連携室（下記）にご連絡ください。

直通 0765・22-1354（平日9:00～16:00）

富山労災病院では、緊急に受診を希望される方の受付を行っています。

症状を自覚した時、夜間・休日の救急外来の時間まで待たずに来院してください。

事前に電話されるとスムーズに診療できます。

電話 0765-22-1280（病院代表）